

音楽の力、芸術の力、そして大東の力

いつもしゃべりすぎて、後で反省することが多い私ですが、文化祭の閉会では、言葉が出てこず、言いたいことを言えずに終わり、へこみました。ただただ感動した、そのことを伝えようと、頭の中で様々な言葉を紡ごうとしても、うまく生徒をほめてあげることができませんでした。申し訳なく思います。

「感動」で発想を飛ばします。今年大リーグでホームラン王になった大谷翔平選手の活躍は私のスポーツ観戦の中での一番の感動的な出来事でした。「表現」で発想を飛ばします。世界のビジネスで共通語になっている英語は現在約 17 億人が母国語として使っています。ふと、文化祭の途中で「音楽の力」と「芸術の力」について考えました。大谷翔平選手の活躍はすごいことですが、国をあげて野球をやっている国は少なく、大谷選手の活躍は日本とアメリカでしか放送されていません。せいぜい 4 億人に届いているレベルです。現在日本の教育は、英語を話せる国際人を育てるという視点で英語教育の低年齢化が進んでいます。ここでその是非は論じませんが、英語が話せても、世界の人口は現在 80 億人なので、4 人にひとりと話せる程度です。しかし、音楽や芸術はその 80 億人とつながることが可能です。その 80 億人の人に感動を与えることが可能です。そういう意味で、音楽や芸術は世界の共通語になりうる可能性があります。同時に、様々な音楽や芸術を通じて、自分自身の心が洗われたり、豊かになったりもします。生徒の合唱や演劇、パフォーマンスを見ていて、そんなことを考えていました。これからも音楽や美術の授業を通じて、また日常生活の中でも、音楽や芸術に親しんでほしいと切に願います。

先生方も同じです。是非とも好きな音楽をいつも自分のそばに置いておいてください。時々、芸術にふれる機会も作ってほしいものです。私は音楽をはじめとする芸術にふれた時に頭の中が整理され、新しいアイデアが浮かぶことが多いです。よくライブに行きますが、そのあとの数時間は、言葉やアイデアがあふれてきます。奇しくも教育改革実践家の藤原和博氏は、「人間が蓄積した知識、技術、経験のすべては、脳内のある部分に沈殿している。脳内である意識が強まるとそれらがかき混ぜられて浮かび上がってくる。浮かび上がってきたときに、一瞬にしてそれらはつながり回路を形成する。それを人間の想いや考えとして抱くようになる。」と著書『本を読む人だけが手にするもの』で書いています。ただ沈殿している知識や技術や経験が結びつくには「触媒」が必要だと。その触媒には 3 種類あり、「読書」と「遊び」と「芸術」であり、読書だけでも不十分で「遊びと芸術を体験することで、脳内のいくつかの回路ができ、沈殿している知識や技術や経験のかけらが豊かにつながっていく」と書いています。文化祭では、音楽の力、芸術の力を見つめ直す日になりました。そして、大東の力を感じた一日でもありました。

(2023. 10. 11)